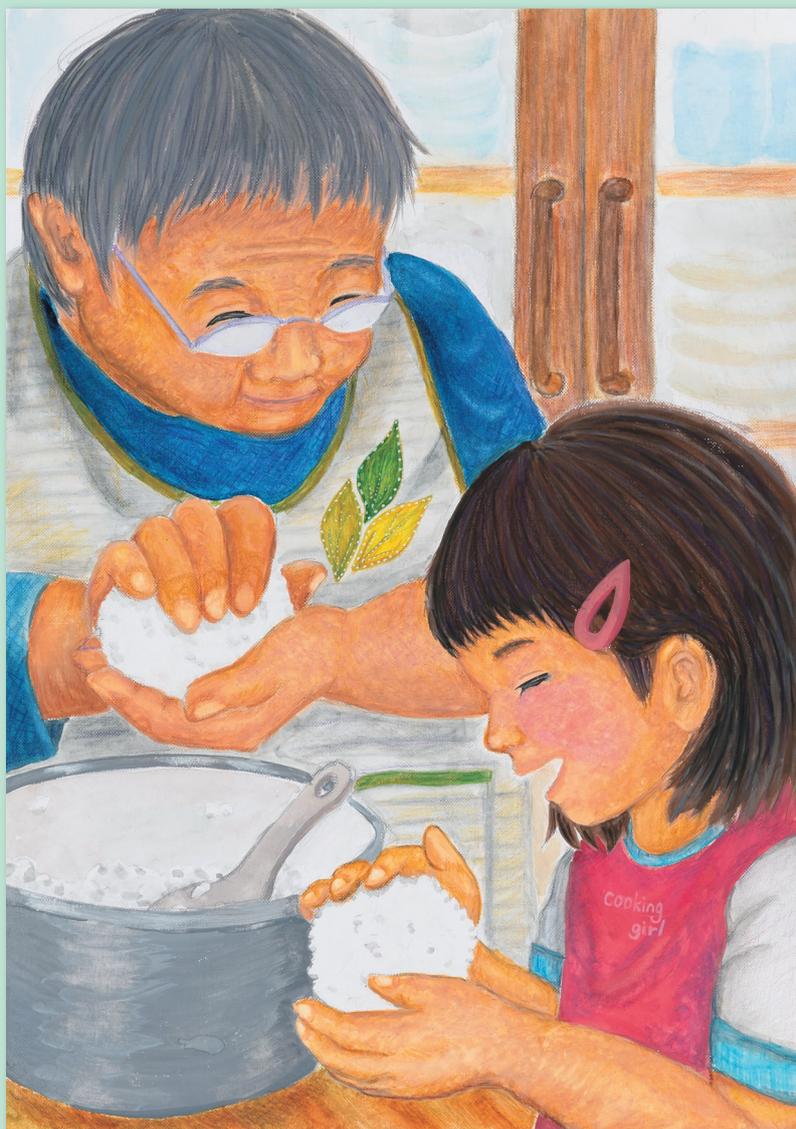


第46回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール募集要領



第45回 図画部門 岩手県知事賞
「おにぎりの思い出」
北上市立江釣子中学校 3年 藤田 若葉さん

- 主 催 岩手県内各JA、JA岩手県中央会
- 後 援 岩手県、岩手県教育委員会
いわてのお米ブランド化生産販売戦略推進協議会
一般社団法人家の光協会北海道東北普及文化局
株式会社日本農業新聞東北支所、JA岩手県信連
JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手

第45回 作文部門 岩手県知事賞

「絆の餅つき」

宮古市立津軽石中学校 2年 佐々木 亮輔さん

私の家では、先祖代々米作り農家でした。四年前の台風十号の豪雨では、祖父が精魂込めて育てた田んぼを襲いました。田んぼの被害はひどく元に戻すにはかなりの努力が必要でした。

「もう田んぼはやめる。」

高齢な祖父は残念そうにポツリとつぶやき、仕事を持っている父や母も続ける事が出来なくて、お米を作ることをやめてしまいました。私は、幼い頃から祖父と祖母と共に米作りの手伝いをするのが大好きでした。

米農家であった事もあり、お正月や作物が採れた感謝の日等の節目節目の日には神様や仏様に我が家で収穫したもち米でついでお餅をお供えするのが私の家の古くからのなわらしです。

私が生まれこの家に来るまでは、毎年祖父が杵をにぎり祖母が臼の中のお餅を返してお供え餅をつけていました。

その後、父が祖父の後を引き継いで、毎年十二月三十日に祖母と二人でお正月支度の餅つきをするようになりました。

昨年末、お餅つき準備の時、父が不意に私に、

「亮輔、今年から餅ついてみるか。」

「僕に、出来るかな。」

「大丈夫、俺が臼のお餅を返すから心配しないでやってみろ。」

今まで父がしていた餅つき。何だか父から、一人前に認めてもらった気持ちで嬉しい様な照れくさい様な気持ちでした。初めて握る杵はずっしりと重く、臼のふちを叩かないように気を付けながら精一杯頑張り、時々臼の中のお餅がくっつかない様に父がひっくり返してくれました。

「こっちは、ついたか。」

「あともうちよつとかな。」

臼の中のお餅をまんべんなくつかないと、もち米のつぶつ

ぶとした食感が残ったお餅になるし、水を入れすぎると柔らかすぎるお餅になってしまいます。

「よし、いいぞ。」

大きなボウルに熱々のお餅をへらで取って、入れるとすぐさま祖母や母、妹達がのし板の米粉の上で丸めて形を整えてお供え餅にしています。妹と祖母が、

「お供え餅の大きさはこのくらいでいいの。」

「少々いびつでも神様は喜んでくれるよ。」

大小様々なお供え餅を十三個作り、神様にお供えし、もう一白分は切り餅にしました。

「亮輔、いっぱい食べろ、うめいぞ。」

翌年の元旦、祖父が私に言ってくれました。それは祖父から私へのねぎらいと最高の褒め言葉に聞こえ、嬉しかったです。今年最初に家族揃って食べる、濃厚で伸びのあるお餅は格別に美味しかったです。

残念ながら私の家では、お米作りを続ける事が出来なくてやめてしまったけれど、お米一粒一粒を作る事に並々ならぬ苦労が詰まっていることの大変さに感謝する気持ちと祖父からバトンを引き継いだ毎年の我が家のならわしの餅つきをこれからも絶やさず私は、守り続けていきたい。

今は、新型コロナウイルスの影響もあり、遠く離れた家族とも手軽にオンラインでコミュニケーションを取れる手段が普及しています。核家族化、生活様式の変化で古くからのしきたりや風習は無くなりつつある社会ですが、私は家族と同じ時間を過ごし、笑ったり思いを通わせたりしながら、支えあって生きていく姿に意義があると思います。

私は祖父がお米作りに全身全霊注いでいた姿勢や気持ち、餅つきを通じての家族の絆は、この先大人になっても決して忘れないと思うし、何にも代えられない私の心の大切な宝物です。

目 次

岩手県コンクール募集要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

全 国コンクール募集要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

個人作品貼付用応募票（切り取り）・・・・・・・・・・・・ 7

応募者一覧表（切り取り）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画

岩手県コンクール募集要領

【趣旨】

このコンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的に実施いたします。

【課題】（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現してください。

【主催】

岩手県内JA
JA岩手県中央会

【後援】

岩手県 いわてのお米ブランド化生産販売戦略推進協議会 株式会社日本農業新聞東北支所 JA岩手県厚生連 JA共済連岩手	岩手県教育委員会 一般社団法人家の光協会北海道東北普及文化局 JA岩手県信連 JA全農いわて
--	---

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。

特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

【応募規格】（枚数・大きさ）

●作文部門

1部：小学校1年生～3年生

（400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内）

2部：小学校4年生～6年生（400字詰め原稿用紙3枚以内）

3部：中学校1年生～3年生（400字詰め原稿用紙4枚以内）

（注）作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください（学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出してください）。

（注）本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

●図画部門

1部：小学校1年生～3年生

2部：小学校4年生～6年生

3部：中学校1年生～3年生

B3判（364×515ミリ）、もしくは四つ切り（380×540ミリ）の市販画用紙を使用。

画材は特に制限しません。（注）地域によって多少サイズは異なります。

【応募規則】

- (1) 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) 応募は、ひとり1部門1点です。
- (4) 図画作品でポスター形式（標語・キャップフレーズ文字の入ったもの）のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表（9ページ）を必ず添付してください。記載例は（10ページ）です。校内で選定した際は、全応募総数を記入してください。

- (6) 作品には、1点ごとに必要事項を記入した応募票(7ページ)をつけてください。
つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。(貼り付け見本参照)
- (7) 作品は、県コンクールの審査・表彰式終了後の令和4年2月下旬頃、JAを通じて返却します。ただし、JAではその後に作品を展示する場合がありますので、個人への返却が遅れる場合があることをご了解ください。
- (8) 作品の出版、放送に関する権利は、JA岩手県中央会に帰属します。入賞発表や表彰式、主催者の広報媒体(作品集、次年度の募集要領、ホームページ、テレビ、新聞等)への露出や作品展示などの広報活動、諸事業活動で使用いたします。上位入賞者につきましては顔写真を提供していただきます。ご了解の上、ご応募ください。
- (9) 応募に際して提供された個人情報、承諾なく第三者に提供しません。

【締切日】

令和3年9月3日(金)必着

(応募取りまとめJAを経由して、上記締切日までにJA岩手県中央会へ到着のこと)

【審査委員】

総合委員 八重樫 勝 氏 (元岩手県教育委員会教育委員長)
 専門委員 佐々木 俊 江 氏 (盛岡市下橋中学校指導教諭)
 専門委員 山下 るり子 氏 (盛岡市教育委員会学校教育課指導主事)
 他、岩手県農林水産部、一般社団法人家の光協会北海道東北普及文化局、
 株式会社日本農業新聞東北支所、JA岩手県中央会、JA岩手県信連、
 JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手

【賞】(予定)

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ・岩手県知事賞
作文・図画部門各1名
賞状と副賞 | 計2名 | ・岩手県教育長賞
作文・図画部門各1名
賞状と副賞 | 計2名 |
| ・(一社)家の光協会北海道東北普及文化局長賞
作文・図画部門各1名
賞状と副賞 | 計2名 | ・(株)日本農業新聞東北支所長賞
作文・図画部門各1名
賞状と副賞 | 計2名 |
| ・JA岩手県五連会長賞
作文・図画部門各1名
賞状と副賞 | 計2名 | ・優秀賞
作文・図画部門
賞状と副賞 | 若干名 |
| ・学校奨励賞
作文・図画部門各1校
賞状と副賞 | 計2校 | ・佳作
作文・図画部門
賞状と記念品 | 若干名 |

※応募者全員に参加賞を贈呈する(9ページの一覧表に氏名を記載した応募者のみ)

【入賞発表】

全国コンクール : 令和3年12月上旬
 岩手県コンクール : 令和3年12月中旬
 (応募取りまとめJAを経由して、入賞校、入賞者宛に通知します)

【作品展示】

上位入賞作品については、盛岡市内の商業施設等で展示を予定。
 期間: 令和4年2月上旬に1週間程度。

●送り先および問い合わせ先

最寄りのJAを経由して
 〒020-0022 盛岡市大通り1-2-1 産業会館内 JA岩手県中央会JA支援部
 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール係まで
 TEL: 019-626-8519
 FAX: 019-623-6117
 E-mail: kouhou@jaiwate.or.jp

第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画全国コンクール募集要領

【課題】(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。

特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

【応募規格】(枚数・大きさ)

●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰め原稿用紙4枚以内)

●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
 - 2部 小学校4年生～6年生
 - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判(364×515ミリ)、もしくは四つ切り(380×540ミリ)の市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。

(注) 地域によって多少サイズは異なります。

【応募規則】

- (1) 作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください。
- (2) 作文は本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。
ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。
- (3) 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
- (4) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (5) 応募は、ひとり1部門1点です。
- (6) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (7) 学校で応募の際は、別添の名簿(9ページ)を必ず添付してください。

- (8) 作品には、1点ごとに次の事項を記入した応募票(7ページ)をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。(貼り付け見本参照) ①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地(郵便番号・電話番号)⑤J A名
- (9) 全国コンクール入賞作品の著作権等は全国農業協同組合中央会に帰属します。

【締切日】

岩手県締切日 令和3年9月3日(金) 必着

【審査委員】

- 審査会委員長 中村 靖彦氏
(東京農業大学客員教授)
- 作文部門 設楽 敬一氏
((公社)全国学校図書館協議会理事長)
- 竹村 和子氏
((公社)全国学校図書館協議会常務理事・事務局長)
- 堀米 薫氏
(児童文学作家、(一社)日本児童文芸家協会理事)
- 真鍋 和子氏
(児童文学作家、(一社)日本児童文芸家協会監事)
- 図画部門 岡田 円治氏
(元株式会社NHKアート代表取締役社長、日本美術家連盟準会員)
- 岡村 泰成氏
(美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員)
- 小柳津 須看枝氏
(日本美術家連盟会員)
- 西巻 茅子氏
(絵本作家)

【賞】

- (1) 内閣総理大臣賞
作文・図画部門各1名——— 計 2名
賞状と副賞(記念盾及びお米券、記念メダル)
- (2) 文部科学大臣賞
各部門各部ごとに1名——— 計 6名
賞状と副賞(お米券及び記念メダル)
- (3) 農林水産大臣賞
各部門各部ごとに1名——— 計 6名

賞状と副賞（お米券及び記念メダル）

- (4) 全国農業協同組合中央会会長賞
各部門各部ごとに1名——— 計 6名
賞状と副賞（お米券及び記念メダル）

- (5) 優秀賞
各部門各部ごとに15名 ——— 計 90名
賞状と副賞（記念メダル）

- (6) 学校奨励賞
内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣
各賞受賞者所属校——— 計 14校
賞状

【入賞発表】

審査会終了後、入賞校、入賞者へ主催者より通知します。新聞などメディアへの発表は、令和3年12月上旬を予定しています。

【主催・後援・協賛】

●主催

農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会
／全国農業協同組合中央会

●後援（予定）

内閣府／文部科学省／農林水産省／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会（NHK）／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／（公社）全国学校図書館協議会／（公社）日本PTA全国協議会／（公社）米穀安定供給確保支援機構

●協賛

全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／全国厚生農業協同組合連合会／（株）日本農業新聞／（一社）家の光協会／（一社）全国農協観光協会

【送り先および問い合わせ先】

最寄りの農業協同組合「作文・図画コンクール」係もしくは
都道府県農業協同組合中央会「作文・図画コンクール」県事務局（2ページ）へ

審査基準は次のとおりです。応募の際にはご注意ください。

作文部門審査基準

“上手な作文”よりも下記の点で“よい作文”を評価する。

1. 課題に沿った作品であること。
2. ごはん・お米に関わる事柄や問題点を、年齢相応に正しく理解しており、かつ、年齢相応の言葉で表現していること（子どもはよく難しい言葉を使いたがるが、年齢に馴染まないものは、好ましくない）。
3. 問題のとらえ方や、考え方が素直であり、かつ自分の意見・感想を率直に述べていること。
4. 自分の生活経験がにじみ出ていること（抽象的、一般的なことのみに終始するものは好ましくない）。
5. 作品全体に希望や明るさが感じられること。
6. 規定の枚数であること。
7. 誤字、脱字がなく、その他の表記（かぎかっこや句読点など）も正確であること（誤字、脱字、添削跡などについては減点の対象になります。必要に応じて、本人に差し戻し、清書させてください）。
8. 作文用紙は1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出す（学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出す）。

図画部門審査基準

<主題のとらえ方について>

1. 子どもらしい発想を尊重する。子どもは時流に敏感なので、のびのびした明るく楽しいアイデアがあるものがよい。
2. 理解させるためディスカッションすること。
3. 宿題的な押しつけで描かせないこと。

<基準について>

(次のようなものは審査の対象外になります)

1. ごはん及びお米を主題としていないもの。
2. スローガンや文字を入れたポスター的なもの。
3. おとぎ話や童話をモチーフにしたもの。
4. 漫画やアニメなどのキャラクターを挿入したもの。
5. おむすびやお米に顔や手・足の出ているもの（擬人化したもの）
および実在しないもの（空想やファンタジー性のあるもの）。
6. 石、木片などを貼りつけたもの。
7. 紙の寸法が極端に大きかったり小さいもの。
8. 紙がボール紙のように厚かったり、半紙のように薄いもの。
9. 台紙に貼って応募したもの。
10. メーカー名や企業名、ロゴマークなどを使用したもの、
および宣伝になる恐れがあるもの。

ただし、キャンバスボードに油絵で描いたもの、あるいは石版画、シルクスクリーン、木版、スクラッチボードなどを利用したものは基準内として審査対象とします。

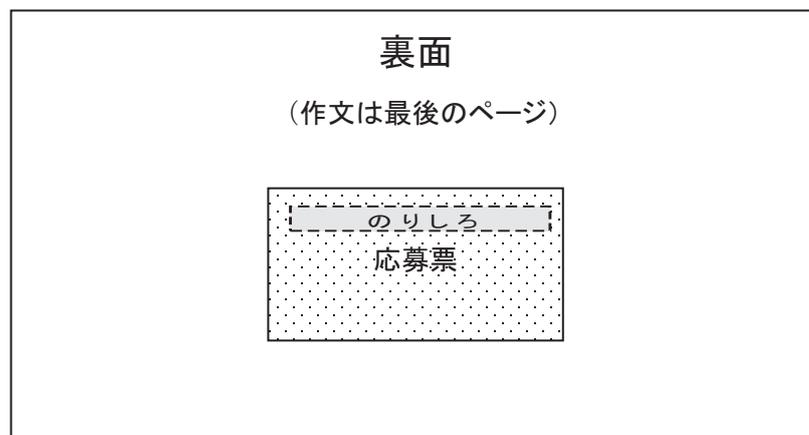
また、いわゆる「切り絵」や「貼り絵」についても審査対象とします。

個人作品貼付用 応募票

作品番号	都道府県コード	作品番号	部門
			作文・図画
作品の題名			
フリガナ			性別
氏名			男・女
フリガナ			学年
学校名		学校	年 組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
JA 名			

- (注) 1. 必要事項を記入の上、作文は最後のページ中央、図画は作品裏面中央に 下図 のりしろ”部分のみ貼付(のり付け)してください。
 (太い枠で囲まれた部分は必ずご記入ください)
2. コピーして作品に貼付してください。
3. 都道府県コード、作品番号は記入不要です。(県段階で記入します)

【貼付見本】



応募者一覧表（記載例）

学校名 盛岡市立 ○○○ ○小・中学校

扱いJA名

JA○○○

作文・図画 部門・部別	学年	氏 名	フリガナ	性別
図画 1部	2年	岩 手 太 郎	イワテ タロウ	男
作文 2部	4年	盛 岡 花 子	モリオカ ハナコ	女

このコンクールは、岩手県コンクールと全国コンクールの2段階制とします。

岩手県コンクールに応募いただいた作品の中から、優秀な作品を全国コンクールに推薦します。(岩手県コンクールを経由しない作品は全国コンクールに応募できません。)

